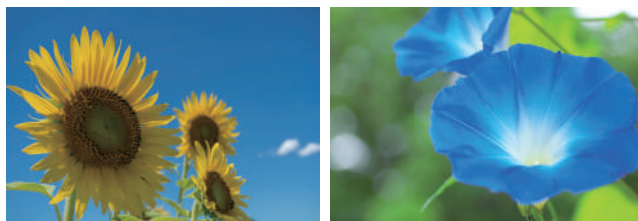


天星 Magazine

vol.11

Jun. 2023

No. 06 四季のおたより 【土用の丑の日にうなぎを食べるのはなぜ!?】



土用の丑の日にうなぎを食べる理由をご存知でしょうか。元々の由来は「土用の丑の日には『う』の付く食材を食べると病気をしない」という言い伝えでした。そのため、「うなぎ」は「う」の付く食べ物の中の一つではありませんでした。現代の様に、土用の丑の日にうなぎを食べる習慣を根付かせたのは、江戸時代中期の学者、平賀源内だと言う説があります。源内は、とあるうなぎ屋より、「夏はうなぎが売れなくて困る」と相談を受けました。そこで源内は一計を案じます。「本日、丑の日と幟に書いて売り出さない」。この作戦が成功して、うなぎ屋は大繁盛となり、それを見た他のうなぎ屋も真似をしたことから、土用の丑の日にうなぎを食べるという文化が根付いたと言われています。うなぎにはビタミンB1などの疲労回復に役立つ栄養素が豊富に含まれているので、夏バテの予防に繋がることからこの時期に食べるのは理にかなっていると言えるでしょう。土用の丑の日には、うなぎを食べて夏の疲れを癒してみたいかがでしょうか。

No. 07 新原今昔さんぽ Episode.4 【徳川家康を喜ばせた「功名の勝栗」】

先ごろ放送されたNHK大河ドラマ「どうする家康」では、三方ヶ原の戦いで徳川家康の敗北が描かれました。しかし、家康はただ負けたのではなく、敗戦を糧に戦国武将として大きく成長していきます。そんな家康の「リベンジマッチ」にまつわる浜松市天竜区只来（ただらい）の伝承をご紹介します。

★
三方ヶ原の戦いから3年後の天正3年（1575年）。家康は、かつて武田信玄に攻め取られた二俣城の奪還作戦に乗り出しました。しかし、信玄亡き後の武田勢とはいえ城の守りは固く、なかなか落城しません。それを見かねた、二俣城近くの光明寺の和尚が家康に言いました。「城への秘密の抜け道がありますれば、そこから攻めなさい」。家康は和尚に教えられた道から攻め込み、見事、城を落としました。

この勝手を喜んだ和尚は、自分の檀家

である只来村の農民に「地元で採れる栗を家康様に献上しなさい」と言います。そこで村人たちは栗を臼でついて「搗栗（かちぐり）」を作り、家康に献上しました。家康が「これは何じゃ?」と尋ねると、村人は「光明寺の搗栗でございます」と答えます。すると家康は「何、光明の搗栗だ?それは『功名の勝栗』だ!何とも縁起が良いではないか!」と大喜びし、その搗栗をいくつも食べました。そして家臣に「この者たちに褒美を取らせよ。名字も与えてやれ」と命じたのでした。

その後、只来村の住人は毎年、搗栗を作って浜松城の家康に献上しました。そして江戸幕府が開かれてからも、毎年、代々の将軍に搗栗を献上し続け、何と明治の世になるまで270年間もそれが続けられたというから驚きです。

当時、江戸城の大奥では「光明の搗栗（功名の勝栗）」を正月の祝いの膳に載せ、将軍に差し上げるのが習慣になっていました。また、只来村ではこのために租税

が免除され、搗栗を江戸まで運ぶ際には大名行列と同じ扱いを受けます。それにより、通行時の取り調べが厳しい大井川も箱根の関所も、フリーパスで通行できたといいます。

戦国乱世を終わらせ、天下泰平の世を築いた徳川家康。その偉業に、天星製油株式会社から遠くない只来の人々も貢献したことは、地域にとって大きな誇りといえるでしょう。

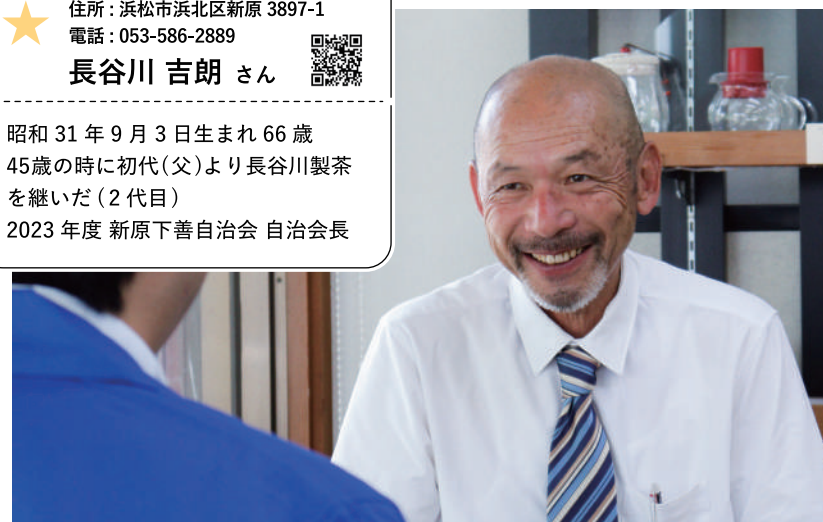


家康も食したという搗栗

No. 01 編集長オオツカのご近所探訪記 file#06

★ 長谷川製茶株式会社（はまきた園）
住所：浜松市浜北区新原 3897-1
電話：053-586-2889
長谷川 吉朗 さん

昭和31年9月3日生まれ66歳
45歳の時に初代(父)より長谷川製茶を継いだ(2代目)
2023年度 新原下善自治会 自治会長



大塚：今回は2023年度 新原下善自治会長である長谷川さんにお話を伺っていきます。長谷川さんはVol.8で紹介した長谷川製茶を営まれています。

長谷川：20年前に2代目として長谷川製茶を継いで、お茶の栽培と販売を行っています。

大塚：お父様の代からお茶を販売されていたのですか？

長谷川：元々はお茶だけを販売していたわけではありません。父の代は終戦後でしたので、色々なことをしていました。サトウキビを作ったり、農具や茶碗を販売したり、三輪車で近所の方々の物を運ぶ手伝いとかもしていました。お茶はその一つでしたが、色々あって今の長谷川製茶となりました。

大塚：歴史が詰まっていますね。休日どのようなことをされていますか？

長谷川：365日お茶のことを考えているので、あまり趣味と呼べるものはありません。ただ、日本茶インストラクター協会浜松支部に属してまして、小中学校でのお茶教室やさまざまな年齢の方を対象にお茶の入れ方講座などを行っています。

大塚：お休みの時も、日本茶文化の普及に励まれているんですね。4月より自治会長へ就任されましたが、心境の変化はありましたか？

長谷川：正直な話、これまでは、あまり自治会に興味を持っていませんでした。ですが、自治会長として活動をしていくなかで、地域にとって必要だと感じる仕事が多々あることに気が付きました。前任者やこれまで自治会を運営してこられた方々は大事なことをしておられたのだと感じています。

大塚：地域の方々が安心して暮らし



今の時代に合った活動を心掛けています。

新茶を摘み終えた5月末に取材しました!



ていくためには、自治会はなくてはならない存在ですね。自治会長としての抱負がありましたら教えてください。

長谷川：これまで、自治会に携わってこられた方々の尽力により、意義のある活動がたくさん生まれてきました。発足の経緯を大切にしつつも、価値観や生活様式などが多様化しているので、より今の時代に沿った活動にしていく必要性を感じています。自治会の活動に皆さんが参加しやすくなるように、現状の活動内容や業務を見直ししやすい雰囲気を作っていけたら良いと考えています。

大塚：本日はありがとうございます。



天星製油の最新のニュースをお届けします！



編集長
オオツカ

4月19日に

全社員で受講。



浜 松市の出前講座「大規模地震に備えて～自分の命は自分で守る～」を受講いたしました。この講座では、地震に起因する火災や津波などの被害、発災後の避難所生活、災害に対する日頃からの備えについて学ぶことが出来ました。中でも、東日本大震災を経験された方の「**備えてきたことしか役には立たなかった。備えていただけでは十分ではなかった**」という言葉は、深く胸に突き刺さりました。震災はいつ起こるか分かりません。いつ大規模地震が起きても対応できるよう、今後も様々な事態を想定して事業を行って参ります。

水をきれいにする実験！



南 米系の外国人学校「ムンド・デ・アレグリア」校の高校生2名が天星製油へ職場体験に来ました。この職場体験では、社会人になるための基本的なビジネスマナー講習や、実験、事務の仕事にチャレンジしてもらいました。特に実験では、水から汚れを取り除くという作業を行い、「**どんな原理で水がきれいになるのか**」など、学生から活発な質問が寄せられ、大変有意義な時間となりました。当社では「職場体験を今後の人生に役立ててほしい」という思いで準備をしておりましたので、学生たちの積極的な姿勢に接し、「実施してよかった」と強く感じました。天星製油では、定期的に会社見学を受け付けております。もし、ご興味のある方がいらっしゃいましたら、お気軽にお問い合わせください。

No. 03 「旬」な天星スタッフご紹介！

鎌田 亮太郎

営業2課



Q お仕事内容は？
タンクローリーを運転して静岡県東部のお客様から廃油を回収しています。沼津から伊豆の国市の大仁辺りまでが担当エリアです。最近、お客様との窓口として営業をする立場になったので、油の回収をしながら、新規顧客開拓も行っています。



佐野 達彦

エコメングループ

Q お仕事内容は？
油系機械設備のメンテナンス業務を行っています。具体的には、油水分離槽やタンクの清掃、油圧機器のオイル交換等です。コンデンサーなどで使用される絶縁油の回収作業を主に担当しています。

Q 最近のトピックスは？

私は釣りが好きで、休日は同僚や保育園のパパ友、家族と一緒に釣りに行きます。最近暖かくなってきたので、**釣り餌用の大きなミミズが取れるようになったことがトピックスですかね**。ミミズはウナギの釣り餌として使用するのですが、釣り餌の大きさと比例して、釣れるウナギのサイズも変わるので、大きなウナギが取れるよう、釣りを楽しんでいます。

Q これからの抱負をお願いします！

ピアノを上手に弾けるようになりたいですね。娘がピアノを始めたのをきっかけに、私もピアノを弾き始めるようになりました。娘と一緒に始めたので、娘に置いて行かれないよう、地道に練習をしています。**いずれはストリートピアノで娘と一緒に演奏したいと思っています**。娘に負けないよう、これからも練習を頑張っていきます！

Q 最近のトピックスは？

ヒョウモントカゲモドキ（通称レオパ）の「えびす」を飼い始めたことです。元々、爬虫類は苦手でしたが、**触れ合ったことでイメージが変わりました**。実際に触ると想像以上に柔らかく、癖になる触感をしているのです。最近は帰宅してから、えびすを観察するのが日課になっています。

Q これからの抱負をお願いします！

今年の2月で入社5年目になりました。今振り返ると、初めての業界で分からないことが多く、困ったときは色々な人に助けられながら過ごした4年間だったと感じます。**今後は、得た知識を新入社員に還元していきたいです**。困っている人を放置せず、私から声を掛けてサポートしていくことで、新人の方々が安心して働いていける環境を作っていきたいです。

今 回は産業廃水の処理についてご紹介します。産業廃水と言っても様々な廃水がありますが、弊社では油が混入している水の「**廃油水**」を主に回収し、処理しています。この廃油水はそのまま川に放流することが出来ません。**誤って放流してしまうと、生態系の破壊や環境汚染を引き起こしてしまいます**。そのため、何らかの方法で廃油水を減容化（量や有害性を減らすこと）したり、無害化する必要があるのです。弊社ですでに初めに行っているのは、廃油水

から油を取り除く工程です。**廃油水には、油と水を結び付ける「界面活性剤」が含まれています**。そのため、本来は水と混ざり合わない油が、水の中に細かく分散している状態となっています。つまり、液中に含まれている界面活性剤をいかに無効化するかが、減容化のカギとなります。その方法は、廃油水に酸を添加し、pH調整をすることです。酸を添加すると、液中の水素イオン濃度が高まります。水素イオン濃度が高まることによって、界面活性

剤の分子が変化し、油や水と結合する効力が薄れるのです。すると、**油滴が水中に分散していられなくなり、大きな油滴となって水面へ浮上します**。後は、浮上してきた油を回収し、廃油水を中和することで1段階目の処理は終了します。次回に続く！

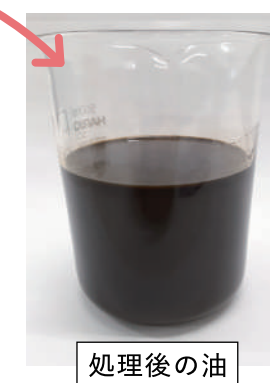
産業排水の処理プロセス



廃油水処理前



処理後の水



処理後の油

No. 05 環境保全 Report 【維持管理についてのご報告】

産業廃棄物の保管タンク1基の更新及び、その他のタンクや配管等の塗装を実施いたしました。弊社では、油や産業廃棄物の保管タンクなどについても、自社で内部を清掃し、劣化の状況や異常の有無を定期的に確認しています。今後も、定期的な施設の点検により、適切に維持管理を進めて参ります。

